



見てみよう、訪ねてみよう、せとの歴史と文化財



広久手 F 窯跡 窯体

広久手第 30 号窯跡 覆屋

歴史文化基本構想推進事業 瀬戸の魅力再発見 **せと 歴史と文化財を知る見学会**
「見てみよう！ 発掘調査Ⅱ」

日時：平成 30 年 8 月 19 日 (日)

見学コース：①午前 10 時 00 分	②午後 1 時 30 分	文化センター北駐車場出発
(予定時間) 10 時 15 分	1 時 45 分	あいち海上の森センター駐車場到着
10 時 50 分	2 時 20 分	広久手 F 窯跡調査現場
11 時 45 分	3 時 15 分	あいち海上の森センター出発
12 時 00 分	3 時 30 分	文化センター北駐車場到着・解散

瀬戸市域の主な指定・登録文化財

やきもの生産の変遷

今回見学する文化財とその関連年表

本地大塚古墳 (西本地町 2 丁目)

宮地古墳 (上之山町 2 丁目)

広久手第 30 号窯跡
 木造十一面観音菩薩立像 (下半田川町) 県
 木造阿弥陀如来立像 (下半田川町) 県

古瀬戸瓶子 (寺本町)

陶製狛犬 (深川町) 国

瀬戸窯跡【小長曾窯跡】(東白坂町) 国
 永享年銘梵鐘
 聖徳太子絵伝 (塩草町)

定光寺本堂 (定光寺町) 国
 織田信長制札 (窯町)
 菱野郷倉『大般若経』[一部鎌倉]
 瀬戸窯跡【瓶子窯跡】(夙山町) 国
 源敬公廟 (定光寺町) 国
 笠原村・両半田川村国境争論絵図 (東松山町)
 石造地藏菩薩立像 (片草町)

陶質十六羅漢塑像 (寺本町)
 六角陶碑 (藤四郎町)

旧山繁商店 (仲切町・深川町) 国登
 瀬戸永泉教会礼拝堂建造 (杉塚町) 国登
 陶製梵鐘 (深川町)

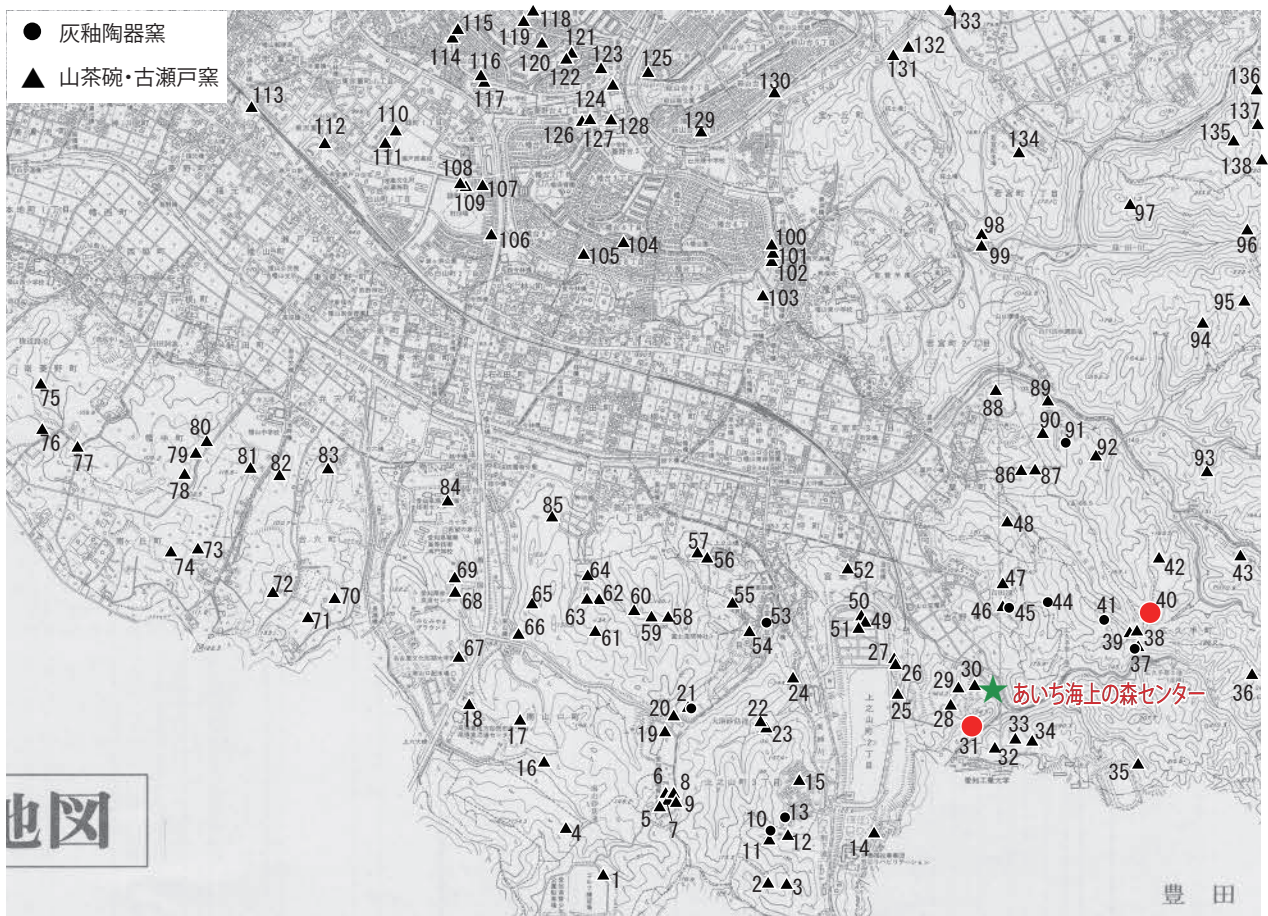
近代

古墳	5 世紀	須恵器
	6 世紀	
飛鳥	7 世紀	須恵器
	8 世紀	
奈良	8 世紀	須恵器
平安	9 世紀	
	10 世紀	
	11 世紀	
	12 世紀	
鎌倉	13 世紀	山茶碗
	14 世紀	
南北朝	14 世紀	古瀬戸
室町	15 世紀	
戦国	16 世紀	大窯製品
	17 世紀	
江戸	18 世紀	連房製品
	19 世紀	
	20 世紀	
近代	(明治)	
	(大正)	
	(昭和)	
	21 世紀	

広久手第 30 号窯操業

広久手 F 窯操業

瀬戸市南部の窯業生産



瀬戸市南部の窯跡分布図（1：20,000）

現在、瀬戸市域で確認されている中世の窯跡はおよそ 500 基以上あり、そのうち南部の幡山区の窯跡は約 150 基にのぼります。さらに、幡山区には、12 世紀から登場する無釉の日常雑器である「やまぢやわん山茶碗」を生産した窯や、中世の日本で唯一、釉薬を施したやきものである「こせと古瀬戸」を生産した窯の中でも、その初期に操業した窯が集中しており、中世瀬戸窯の黎明期に盛んに窯業生産が行われたことが明らかにされています。中世における古瀬戸の生産は、後世、瀬戸市が「やきもののまち」として発展する礎となっており、そうした意味でも幡山区における窯業生産の重要性は注目すべきものです。

この中世瀬戸窯の誕生は、古代末期の幡山区における「かいゆう灰釉陶器」生産に端を発しており、言い換えれば、瀬戸窯の誕生・発展が幡山区の灰釉陶器生産であったといえます。幡山区の灰

釉陶器窯には、広久手第 20・30 号窯跡、広久手 C1・C3 号窯跡、広久手 E 窯跡、広久手 F 窯跡、百代寺窯跡などが挙げられます。これらは 10 世紀中頃から 11 世紀にかけて操業していることから、瀬戸窯発生期に位置付けられる窯跡といえ、さなげ猿投西南麓古窯跡群（猿投窯）全体の中でも同時代を代表する窯跡として有名です。ただ、各窯跡はそのほとんどが昭和 30 年代に一度調査されていますが、残念ながら窯の正確な図面が残されていないのが現状です。そこで、平成 30 年 2 月に、愛知学院大学によって広久手 F 窯跡の窯体の調査と地計測量が行われました。今回の調査は、窯体の斜面下方に存在する、焼成に失敗した製品を捨てた場所（はいぼら灰原）を中心に調査を行い、本窯の全体像を明らかにすることを目的としています。

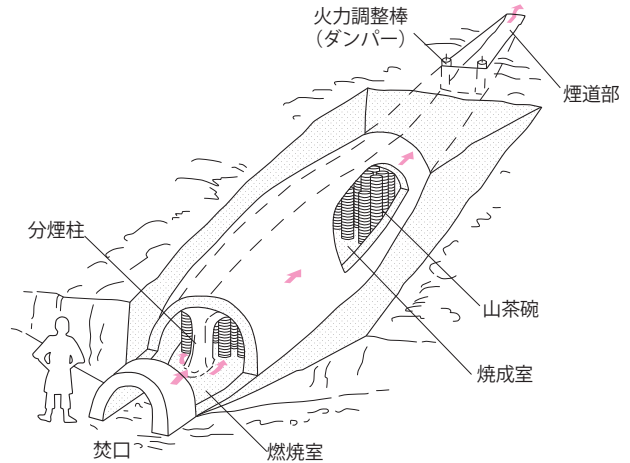
瀬戸市南部の窯跡一覧表

No.	遺跡名	時代	遺物の種類	No.	遺跡名	時代	遺物の種類
1	南山10号窯跡	13世紀	山茶碗	70	大草12・13号窯跡	12～13世紀	山茶碗
2	南山44号窯跡	12世紀	山茶碗・施釉陶器	71	大草14号窯跡	13世紀	山茶碗
3	南山36号窯跡	13世紀	山茶碗	72	大草11号窯跡	13世紀	山茶碗
4	南山31号窯跡	13世紀	山茶碗	73	大草4号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器
5	南山24号窯跡	12世紀	山茶碗	74	大草5号窯跡	13世紀	山茶碗
6	南山23号窯跡	13世紀	山茶碗	75	大草15号窯跡	13世紀	山茶碗
7	南山22号窯跡	13世紀	山茶碗	76	大草6号窯跡	13世紀	山茶碗・片口鉢
8	南山20号窯跡	13世紀	山茶碗	77	大草17号窯跡	13世紀	山茶碗
9	南山21号窯跡	13世紀	山茶碗	78	大草3号窯跡	13世紀	山茶碗
10	南山12号窯跡	11世紀	灰釉陶器	79	大草2号窯跡	12世紀	山茶碗
11	南山38号窯跡	不明	なし	80	大草1号窯跡	12世紀	山茶碗
12	南山11号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器	81	大草9号窯跡	12世紀	山茶碗
13	南山18号窯跡	11世紀	灰釉陶器	82	大草10号窯跡	11～12世紀	灰釉陶器・山茶碗
14	広久手5号窯跡	12世紀	山茶碗	83	大草16号窯跡	12世紀	山茶碗
15	南山19号窯跡	13世紀	山茶碗	84	南山25号窯跡	13世紀	山茶碗
16	南山4号窯跡	13世紀	山茶碗	85	南山30号窯跡	13世紀	山茶碗
17	南山3号窯跡	13世紀	山茶碗	86	広久手3号窯跡	13世紀	山茶碗
18	南山33号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器	87	広久手4号窯跡	13世紀	山茶碗
19	南山13号窯跡	12世紀	山茶碗	88	広久手1号窯跡	12世紀	山茶碗
20	南山35号窯跡	13世紀	なし	89	広久手2号窯跡	12世紀	山茶碗
21	南山8・9号窯跡	11～14世紀	灰釉陶器・山茶碗・施釉陶器	90	広久手29号窯跡	13世紀	山茶碗
22	南山28号窯跡	12世紀	山茶碗	91	百代寺窯跡	11世紀	灰釉陶器・山茶碗
23	南山37号窯跡	13世紀	山茶碗	92	広久手22号窯跡	13世紀	山茶碗
24	南山39号窯跡	13世紀	山茶碗	93	海上B窯跡	13世紀	山茶碗
25	広久手21号窯跡	13世紀	山茶碗	94	海上北山窯跡	13・14世紀	山茶碗・施釉陶器・片口鉢
26	広久手17号窯跡			95	海上F窯跡	13世紀	山茶碗
27	広久手7号窯跡	13世紀	山茶碗	96	篠田窯跡	13～15世紀	13世紀
28	広久手12号窯跡	12世紀	山茶碗	97	海上E窯跡	13世紀	山茶碗
29	広久手18号窯跡	13世紀	山茶碗	98	塚原1号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器
30	広久手19号窯跡	13世紀	なし	99	塚原2号窯跡	13・15世紀	山茶碗・施釉陶器
31	広久手第20・30号窯跡	10世紀	灰釉陶器	100	山口八幡1号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器
32	広久手27号窯跡	13世紀	山茶碗	101	山口八幡2号窯跡	15世紀	施釉陶器
33	広久手26号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器	102	山口八幡3号窯跡	15世紀	施釉陶器
34	広久手25号窯跡	13世紀	山茶碗	103	山口八幡社裏1・2号窯跡	15世紀	ヤマ茶碗・施釉陶器
35	広久手15号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器	104	今林4号窯跡	12世紀	山茶碗
36	広久手24号窯跡			105	今林3号窯跡	13世紀	山茶碗・片口鉢
37	広久手28号窯跡	11～13世紀	灰釉陶器・山茶碗・施釉陶器	106	今林2号窯跡	12世紀	山茶碗
38	広久手D1号窯跡	15世紀	施釉陶器	107	今林1号窯跡	12世紀	山茶碗・施釉陶器
39	広久手D2号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器	108	釜ヶ洞2号窯跡	13世紀	山茶碗・片口鉢
40	広久手F号窯跡	11世紀	灰釉陶器	109	釜ヶ洞1号窯跡	12・13世紀	山茶碗・施釉陶器・片口鉢
41	広久手E号窯跡	11世紀	灰釉陶器	110	緑1号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器・片口鉢
42	広久手H号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器	111	緑2号窯跡	13世紀	山茶碗
43	広久手23号窯跡	13世紀	山茶碗	112	平子窯跡	12・13世紀	山茶碗・施釉陶器・片口鉢
44	広久手C3号窯跡	11世紀	灰釉陶器	113	赤重窯跡	19世紀	磁器
45	広久手C1号窯跡	11世紀	灰釉陶器	114	井林2号窯跡	13世紀	山茶碗・片口鉢
46	広久手C4号窯跡	不明	山茶碗	115	井林1号窯跡	12世紀	山茶碗・施釉陶器
47	広久手C2号窯跡	13世紀	山茶碗	116	井林7号窯跡	13・15世紀	山茶碗・片口鉢
48	屋戸A窯跡	13世紀	山茶碗	117	井林8号窯跡	13・14世紀	山茶碗・片口鉢
49	広久手16号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器・片口鉢	118	井林6号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器・片口鉢
50	広久手13・14号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器・片口鉢	119	井林3号窯跡	13世紀	山茶碗
51	広久手6号窯跡	13世紀	山茶碗・片口鉢	120	井林5号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器・片口鉢
52	官地A窯跡	13世紀	山茶碗	121	長根7号窯跡	13世紀	山茶碗
53	長洞窯跡	11世紀	灰釉陶器	122	長根8号窯跡	13世紀	山茶碗
54	南山29号窯跡	13世紀	山茶碗	123	長根9号窯跡	13世紀	山茶碗
55	南山17号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器	124	長根4号窯跡	13世紀	山茶碗
56	南山16号窯跡	13世紀	山茶碗	125	長根3号窯跡	13世紀	山茶碗・片口鉢
57	薬師山窯跡	17世紀	施釉陶器	126	長根1-2号窯跡	13世紀	山茶碗
58	南山43号窯跡	13世紀	山茶碗	127	長根1-1号窯跡	12世紀	山茶碗・施釉陶器
59	南山7号窯跡	12世紀	山茶碗	128	長根2号窯跡	13世紀	山茶碗・片口鉢
60	南山14号窯跡	13世紀	山茶碗	129	山口八幡6号窯跡	13世紀	山茶碗
61	南山5・6号窯跡	12世紀	山茶碗・施釉陶器	130	山口八幡5号窯跡	13世紀	山茶碗
62	南山42号窯跡	13世紀	山茶碗	131	宝ヶ丘A窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器
63	南山41号窯跡	13世紀	山茶碗	132	宝ヶ丘B窯跡	13世紀	山茶碗
64	南山32号窯跡	13世紀	山茶碗	133	塩草A窯跡	13世紀	山茶碗
65	南山40号窯跡	13世紀	山茶碗	134	若宮A窯跡	13世紀	山茶碗
66	南山1号窯跡	13世紀	山茶碗	135	西山路E窯跡	13・14世紀	山茶碗・施釉陶器・片口鉢
67	南山2号窯跡	12～13世紀	山茶碗・施釉陶器	136	清掃センター窯跡	13・14世紀	山茶碗
68	南山34号窯跡	13世紀	山茶碗	137	西山路D窯跡	13世紀	山茶碗
69	南山15号窯跡	13世紀	山茶碗・施釉陶器	138	西山路H窯跡	13・14世紀	山茶碗・施釉陶器

① 広久手 F 窯跡の調査

広久手 F 窯跡をはじめ、平安時代の灰釉陶器を生産した窯や中世の山茶碗・古瀬戸を生産した窯は、一般的に「^{あながま}窖窯」と呼ばれるものです。これは右図のように、丘陵斜面をトンネル上に掘りぬいた単純な構造の地下式、もしくは半地下式のもので、斜面下方から順に燃料である薪を投入する「^{たきぐち}焚口」、燃料を燃やす「^{えんどうぶ}焼成室」、煙突の役割を果たす「煙道部」からなります。

本窯跡の最初の調査は昭和 38 (1963) 年に実施され、窯体と灰原が確認されています。当時の調査段階ですでに窯体の天井は崩落していましたが、焚口から煙道部にかけての床面及び側壁は良好に残存していました。当時の記録では全長が 5.75 m、最大幅 1.81 m、床面の最大傾斜は 45°とされています。また、出土した灰釉陶器は 11 世紀代であることが明らかにされており、後述する広久手第 30 号窯跡よりも後に生産が行われたことがわかっています。本窯跡から出土した灰釉陶器は、碗類や皿類が中心となっていますが、ほぼ完全な形で出土した「灰釉縄手付瓶」は国指定有形民俗文化財となっています。



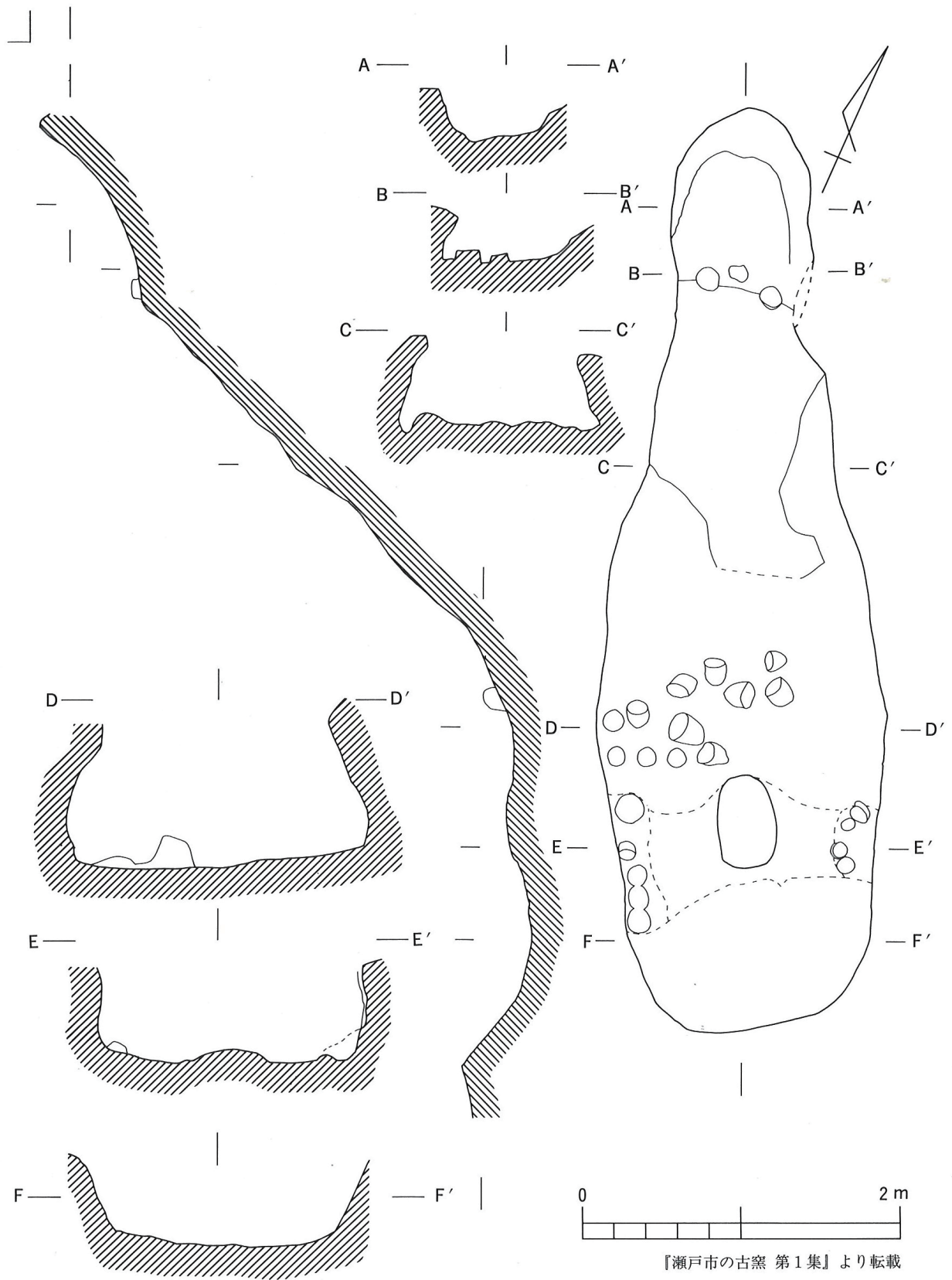
窖窯模式図



国指定有形民俗文化財「灰釉縄手付瓶」



広久手 F 窯跡窯体全景 (左は昭和 38 年、右は平成 30 年撮影)



【瀬戸市の古窯 第1集】より転載

広久手 F 窯跡窯体実測図 (昭和38年作成)

(参考) 広久手第 30 号窯跡

本窯跡は、市域南部の幡山区の南端、豊田市との市境に近い標高約 150 m の東向き小丘陵斜面に構築されています。平成 12 年に、愛知万博エントランスエリア整備に伴う発掘調査が行われ、窯体 1 基とそれに伴う灰原、丘陵上平坦面、土坑状遺構が検出されました。

現在保存されている窯体は半地下式の窖窯構造で、天井及び煙道部は流失していましたが、焚口から燃烧室・焼成室まで比較的良好に残存していました。残存長は中軸で 4.2m、最大幅は焼成室下方で 1.45 m で、床面傾斜は焼成室上方で 35° となります。なお、第 30 号窯跡の南側、小支谷を挟んだ東向き斜面には、平成元年に調査された第 20 号窯が構築されていましたが、現在は滅失してしまっています。

この他、尾根上にはおそらく人工的に造成された平坦面がみられ、そこでは柱穴（ピット）と溝が検出されました。この空間の時期や用途は明らかにされていませんが、平坦面上では使用痕が認められる灰釉陶器がまとまって出土していることから、窯体に伴う何らかの施設があったことが想定されます。

土坑状遺構は第 20 号窯から南へ 2 m 付近の場所で確認されました。地山を削平して狭い平坦面を造成していましたが、用途は明らかにさ

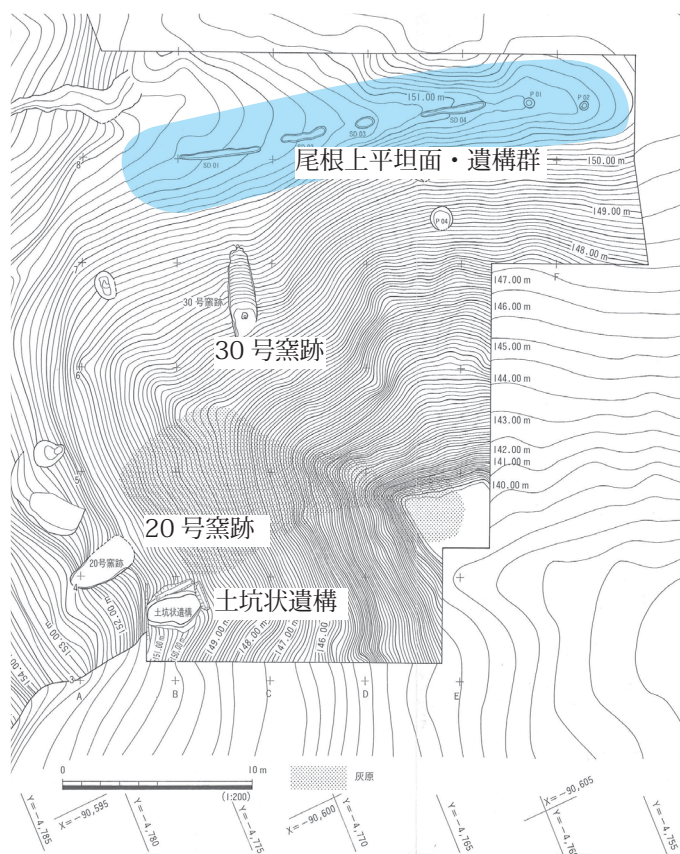


広久手第 30 号窯跡全景

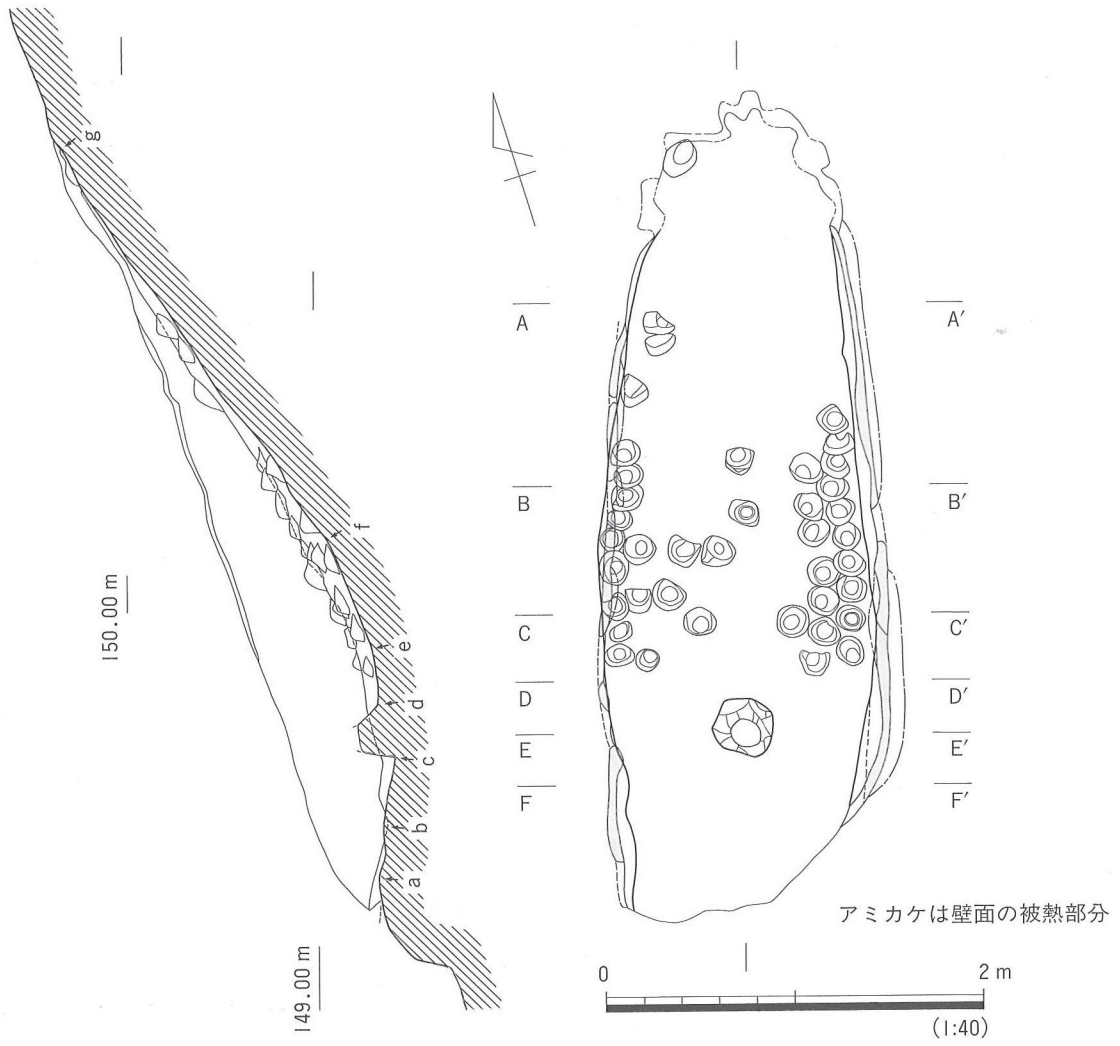
れていません。この他、失敗した製品や、窯から出た炭や焼土を投棄した灰原は、第 20 号窯跡が確認された東向き斜面を中心に広がっており、第 30 号窯跡のある南向き斜面では明確な広がり確認されてませんでした。したがって灰原のほとんどが第 20 号窯跡から排出されたもので、そうした様相から第 30 号窯跡の操業は比較的短命であったと推定されています。

発掘調査で出土した遺物は、灰釉陶器の碗・ふかわん 深碗・皿・だんざら 段皿・おりふちざら 折縁皿・たく 托といった碗皿類を中心に水注・すいちゅう 平瓶・へいへい 小瓶・しょうへい 広口瓶・ひろくちへい 短頸壺・たんけいこ 甕などかめの瓶類や、片口鉢・小鉢などの鉢類がみられます。

本窯跡で生産された灰釉陶器の年代は、10 世紀中葉から後葉と考えられており、この年代は、現在瀬戸市域で生産されたやきものの中で最も古い段階にあたることから、本窯跡が瀬戸窯で最古の窯跡と位置付けられています。



広久手第 30 号窯跡遺構配置図



広久手第 30 号窯跡窯体実測図



広久手第 30 号窯跡窯体全景



広久手第 30 号窯跡出土遺物

今後のスケジュール

<11月>

せと歴！ 登録文化財一斉公開 瀬戸・歴史ある建物を巡る

日時：11月24日（土） 午後1時00分～4時00分

集合場所：パルティセと北側リモージュ広場

解散場所：瀬戸蔵ミュージアム

内容：登録文化財である旧山繁商店や瀬戸永泉教会礼拝堂などを見学します。

参加費：無料

定員：30人

※申し込み方法等、詳しくは広報せと10月15日号に掲載します。

瀬戸市歴史文化ホームページの新設

昨年度、新たに瀬戸市の歴史文化に関するホームページ「瀬戸市の歴史・文化～1000年以上の歴史を誇るせとものまち 陶都瀬戸～」を開設しました。

これまでに開催した「まちめぐり」の資料や瀬戸の古い町並みなどの写真、さらに昨年度刊行した瀬戸市歴史文化ガイドブック「千年続く誇りを巡る旅」、瀬戸を知るテーマ別ガイド「のんびりじっくりせとマップ」などが閲覧・ダウンロードできます。ぜひご活用下さい。

アドレス：<http://seto-guide.jp/>



本事業は、平成30年度歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業（文化芸術振興費補助金）を活用して実施しています。

主催：瀬戸市歴史文化基本構想を活用した観光拠点形成のための協議会（瀬戸市地域振興部文化課）